

自衛消防隊操法要領

火災を発見したら

通報・連絡

●大声をあげて近所に知らせて119番

- 1 周囲に知らせる
 - 必ず大声で周囲に知らせる
 - ひとりで行動しないで、できるだけ多くの人に助けをもらう。
- 2 119番に通報する
 - 安全なところから落ちついて119番通報する

119番通報の仕方

消 防：消防です。火事ですか、救急ですか。

通報者：火事です。

消 防：**場所**はどこですか。

通報者：〇〇町〇番〇号の〇〇アパートです。

消 防：近くに大きな**目標物**はありますか。

通報者：〇〇公園の西側です。

消 防：**何が（どこが）燃えていますか。**

通報者：2階から火が出ています。

消 防：**けが人や逃げ遅れ**はいますか。

通報者：全員避難しています。けが人はいません。

消 防：分かりました。すぐに向かいますので、消防車が近くに来たら誘導をお願いします。最後にあなたの名前を教えてください。

通報者：〇〇です。

初期消火

火災を大きくしないためには、できるだけ早く消火することが大切です。

万一のために消火器を備えておき、いつでも使えるところに置いておきましょう。

消火器の 使い方	●安全ピンに指をか け、上に引き抜く	●ホースをはずして 火元に向ける	●レバーを強く握っ て噴射する
			
	●入口を背にし、避難路を 確認しておく（※）		
消火器の 構え方	●やや腰を落として、 低く構える		
	●炎を狙うのではなく、 火の根元を掃くように 左右に振る		

※屋外で使用する場合は、風上側から消火する

目 次

1	操法実施基準	1
2	操法要領	
	(1) 小型動力ポンプ操法要領	5
	(2) 消火栓操法要領	7
	・ 操法施設及び器具配置、操法操作員位置図	9
	(3) 屋内消火栓操法要領	11
	・ 操法施設及び器具配置、操法操作員位置図	13
3	操法審査要領	15

トンボメール

市の防災・災害情報をメールでお知らせする無料サービスです。

〈メールでの登録方法〉

tonbo@tonbo.ton21.ne.jp へ空メールを送信してください。折り返し登録案内メールが届きます。



QRコード

操 法 実 施 基 準

1 操法の種別

- (1) 小型動力ポンプ操法 男子（地域・職域）
- (2) 消火栓操法 男子（地域・職域）・女子（地域・職域）
- (3) 屋内消火栓操法 女子（職域）

2 操法の人員

- (1) 小型動力ポンプ操法…1チーム指揮者以下5名（補助員1名含む。）
- (2) 消火栓操法…1チーム指揮者以下4名
※女子消火栓の部（地域・職域とも）について、最高2名まで男子隊員の参加（ただし、2番員・3番員に限る。）を認める。
- (3) 屋内消火栓操法…1チーム指揮者以下4名

3 水利、火点及び放口等の位置（P9、P10、P13図のとおり）

(1) 水利

- ア 小型動力ポンプ操法…組立式水槽
- イ 消火栓操法…台付消火栓
- ウ 屋内消火栓操法…屋内消火栓

(2) 火点

- ア 小型動力ポンプ操法及び消火栓操法
注水線から7m離れた地上高3.5m、直径20cmの標的
- イ 屋内消火栓操法
 - ・水消火器用火点
注水線から2m離れた位置の火皿
 - ・屋内消火栓用火点
注水線から5m離れた地上高2.1m、直径50cmの標的（可倒式）2箇所

(3) 放口の位置

- ア 小型動力ポンプ…左側
- イ 消火栓…右側
- ウ 屋内消火栓ボックス…左側

4 ポンプ、ホース、筒先等の位置

(1) 小型動力ポンプ操法及び消火栓操法

- ア ポンプ、消火栓及び水槽の位置は、P9、P10図のとおり。
- イ ホースは二重巻きとし、定位に金具を同一方向に揃えて立ててホース筒先配置線上に置く。
- ウ 筒先は、第1ホースの左右どちらかのホース筒先配置線上に立てて置く。
- エ 吸管は、ポンプ右側1mの位置に並べて置く。

(2) 屋内消火栓操法

ア 屋内消火栓ボックスの位置は、P14図のとおり。

イ ホース及び筒先は40mmとし、ボックス内のホースハンガーにホース2本と筒先1本を収納しておく。

5 ノズル口径、ポンプ圧力、吸管の長さ等

ノズル口径等	操法別	小型動力ポンプ (男子)	消火栓 (男子・女子)	屋内消火栓 (女子)
ノズル口径 mm		23	20	13
ポンプ圧力 MPa		0.35	—	—
吸管の長さ m		4	—	—
筒先圧力 MPa		—	0.3	0.25

6 使用機械器具等

(1) 小型動力ポンプ操法

大会本部で準備する小型動力ポンプ、筒先、吸管

(2) 消火栓操法

大会本部で準備する上水道地上式単口消火栓、筒先

(3) 屋内消火栓操法

大会本部で準備する屋内消火栓、水消火器

7 操法実施上の基本事項

(1) 全般事項

操法は、安全を確保するとともに、迅速確実に行うこと。

(2) 操法開始要領

ア 出場隊は、係員の指示により、操法に使用する器具を点検しホース筒先配置線に配置後、服装を整え開始位置(P10、P14操法開始位置図のとおり)で待機する。

イ 係員の「操法開始」の合図により、操法を開始する。

(3) ホースの延長要領

ホースの延長は、ホースを地面に立てメス金具が手前になるように置き、メス金具付近を足先で押さえ、オス金具を両手で持ち延長方向を定めて前方に転がすようにひろめ、オス金具を手を持って火点に向かって前進しながら延長する。

ただし、屋内消火栓操法については、脇にかかえて延長する。

(4) ホースの結合要領

ホースの結合は、元ホースのオス金具付近を足先で押さえて金具を立て、先ホースのメス金具を両手で結合し、はかま部分を引いて確認する。

ただし、屋内消火栓操法については既に結合した状態で収納されているため結合の必要なし。

(5) ホースの搬送要領

ホースの搬送は、肩に担ぐか脇に抱えて搬送する。この場合、金具は確実に保持すること。

ただし、屋内消火栓操法については、ホース延長に準ずる。

(6) 筒先の搬送要領

筒先の搬送は、背負って搬送する。

ただし、屋内消火栓操法については、ホースとともに脇に抱えて搬送する。

(7) 筒先を背負う要領（小型動力ポンプ操法及び消火栓操法）

右手でノズル、左手で背負いバンドの中央部を持ち、右手を頭上に、左手を右脇下にして背負いバンドをくぐらせ、ノズルが右肩部、ホース結合部が左腰部に位置するように背負う。

（左右対称の動作も可）

(8) 筒先を降ろす要領（小型動力ポンプ操法及び消火栓操法）

左手で筒先の取手近くを持ち、筒先を腹部から頭上へ移動させ、背負いバンドを右手で持って頭をくぐらせ、ノズルを右手、筒先を左手で持つ。

（左右対称の動作も可）

(9) 筒先の結合要領

筒先の結合は、ホースのオス金具付近を足先で押さえて金具を立て、筒先を両手で結合し引いて確認する。

ただし、屋内消火栓操法については既に結合した状態で収納されているため結合の必要なし。

(10) 放口（小型動力ポンプ・消火栓・屋内消火栓）バルブの開放要領

3番員のバルブ開放は、必ず両手で開放すること。この場合、途中から片手で開放することになってもよい。

ただし、屋内消火栓操法については、片手で開放してもよい。

8 各操作員の停止位置等

(1) 監視位置は特に定めないが、足先が注水線から火点側に出てはならない。（注水線上可）

(2) 注水位置は、足先が注水線から火点側に出てはならない。（注水線上可）
屋内消火栓操法における指揮者の初期消火位置についても同様とする。

9 各自衛消防隊の準備物

(1) 小型動力ポンプ操法及び消火栓操法の出場隊は、1チーム当たり長さ20m以上の65mmホース3本

屋内消火栓操法に使用のホースは大会本部にて準備

(2) テント、敷物等

(3) 操法競技用ヘルメット（必ず着用する。）

(4) 手袋（皮手袋、軍手等、必ず着用する。）

(5) 肘、膝あて（極力、着用することとする。）

(6) 消火栓操法及び小型動力ポンプ操法について、特に服装は指定しないが、活動しやすい衣服を着用すること。ただし、短パン、七分丈パンツは禁止、半袖シャツは可とする。

屋内消火栓操法については、長袖シャツ、長ズボンを着用すること。

ただし、半袖シャツに両腕を覆うアームカバー等の着用があれば可とする。

(7) 上記(3)(4)(5)はゼッケンと同様、大会本部で準備し貸出を実施する。

10 その他

操法は、本基準のほか、「小型動力ポンプ操法要領」、「消火栓操法要領」、「屋内消火栓操法要領」により行う。

小型動力ポンプ操法要領

1 想定指示

指揮者

火点方向を向き「想定、火点は前方の、水利は後方の水槽、吸管1本、ホース3本、操作始め」と号令し火点を指差す。

隊員

姿勢を正して㊦の想定指示を受ける。

2 操法開始

指揮者

「操作始め」と号令し㊦が「よし」と呼称後、筒先を背負い第3ホースを肩に担ぐか脇に抱え、第1、第2ホースの延長距離を考慮して火点に向かって前進し、第3ホース延長地点でホースを降ろしホースをひろめ、その場にオス金具を置き、筒先を両手で結合し確認後「よし」と呼称する。

次いで、㊦の第2、第3ホースの結合確認の「よし」の呼称を確認後、「放水始め」と伝達呼称し、筒先を保持して余裕ホースをとりながら前進して注水線手前で筒先を腰部に当て注水姿勢をとる。

1番員

㊦が「よし」と呼称後、第1ホースをひろめポンプ放口に両手で結合確認して「よし」と呼称し余裕ホースをとる。

次いで、第2ホースを肩に担ぐか脇に抱え、第1ホースのオス金具を手に持ち火点に向かって前進し延長、第2ホース延長地点でオス金具を置きホースを降ろしてホースをひろめ、第1ホースと第2ホースを両手で結合し、確認して「よし」と呼称する。

次いで、第2ホースオス金具を手に持ち火点に向かって前進し第3ホース延長地点でオス金具を置き第2ホースと第3ホースを両手で結合し、確認して「よし」と呼称する。

次いで、㊦の「放水始め」の伝達呼称を受け、その場で「放水始め」と復唱し㊦の方向を向き右手を真上に上げて「放水始め」と伝達呼称し、㊦の「放水始め」の復唱（手信号）を確認後、火点に向かって前進し㊦の反対側後方の位置で「伝達終わり」と伝達呼称しホースを両手で持ち注水の補助に当たる。

2番員

㊦が「よし」と呼称後、吸管ストレーナー部付近を両手で持ち、㊦と協力して引きずらないようにポンプ後方の吸管結合に適切な位置に運び、㊦の後方で結合の補助を行い、㊦の「よし」の呼称で㊦と協力してストレーナー部を水利（水槽）に投入する。

次いで、火点に向かって前進し㊦の反対側後方の位置で注水補助に当たる。

3番員

④の「操作始め」の号令で「よし」と呼称し、吸管メス金具付近を両手で持ち、②と協力して引きずらないようポンプ吸口付近まで運び、吸口の蓋を両手で外して吸管を両手で結合し「よし」と呼称後、②の水利投入の補助を行い、ストレーナー部が浮上していないか確認する。

次いで、ポンプのエンジンを始動、真空ポンプを操作し①が「放水始め」と復唱後、余裕ホースを確認しながら両手で放口レバーを開放し送水を行う。

補助者

②、③が水利（水槽）に吸管を投入後、ストレーナー部の浮上を防ぐ。

3 放水停止

指揮者

標的の旗が上がったならば、直ちに「放水止め」と号令し②を介して③に伝達させる。

次いで、②が「放水止め」を伝達し「伝達終わり」と呼称したならば、筒先を外して、隊を解散させる。

1番員

②が「放水止め」を伝達し「伝達終わり」と呼称したならば、ホースから手を離し姿勢を正して、指揮者の指示で解散する。

2番員

④の「放水止め」の号令で「放水止め」と復唱し、その場で③に右手を水平に上げて「放水止め」と伝達呼称した後、姿勢を正し「伝達終わり」と伝達呼称して、指揮者の指示で解散する。

3番員

②が「放水止め」と伝達呼称するのを受け、右手を水平に上げて「放水止め」と復唱後、放口レバーを閉めて姿勢を正して、指揮者の指示で解散する。

消火栓操法要領

1 想定指示

指揮者

火点方向を向き「想定、火点は前方の、水利は後方の消火栓、ホース3本、操作始め」と号令し火点を指差す。

隊員

姿勢を正して㊦の想定指示を受ける。

2 操法開始

指揮者

「操作始め」と号令し③が「よし」と呼称後、筒先を背負い第3ホースを肩に担ぐか脇に抱え第1、第2ホースの延長距離を考慮して火点に向かって前進し、第3ホース延長地点でホースを降ろしホースをひろめ、その場にオス金具を置き、筒先を両手で結合し確認後「よし」と呼称する。

次いで、①の第2、第3ホースの結合確認の「よし」の呼称を確認後、「放水始め」と呼称し、筒先を保持して余裕ホースをとりながら前進して注水線手前で筒先を腰部に当て注水姿勢をとる。

1番員

③が「よし」と呼称後、第2ホースを肩に担ぐか脇に抱え、第1ホースの延長距離を考慮し火点に向かって前進し、第2ホース延長地点でホースを降ろしてホースをひろめ、第2ホースオス金具を手に持ち火点に向かって前進し第2ホースを延長、第3ホース延長地点でオス金具を置き、第2ホースと第3ホースを両手で結合し、確認して「よし」と呼称する。

次いで、㊦の「放水始め」の伝達呼称を受け、その場で「放水始め」と復唱し③の方向を向き右手を真上に上げて「放水始め」と伝達呼称し、③の「放水始め」の復唱（手信号）を確認後、火点に向かって前進し㊦の反対側後方の位置で「伝達終わり」と伝達呼称しホースを両手で持ち注水の補助に当たる。

2番員

③が「よし」と呼称後、第1ホースをひろめ、その場にオス金具を置きメス金具を両手で③に渡し③の結合確認の「よし」の呼称後、余裕ホースをとる。

次いで、第1ホースオス金具を手に持ち火点に向かって前進し第1ホースを延長、第2ホース延長地点でオス金具を置き両手で第2ホースを結合、確認して「よし」と呼称して火点に向かって前進し①の反対側後方の位置でホースを両手で持ち注水の補助に当たる。

3番員

㊦の「操作始め」の号令で「よし」と呼称し②から第1ホースメス金具を両手で受け取り、消火栓放口に両手で結合し、確認して「よし」と呼称する。

次いで、①が「放水始め」と伝達呼称するのを受け、右手を真上に上げて「放水始め」と復唱後、両手で消火栓バルブを開放し送水を行う。

3 放水停止

指揮者

標的の旗が上がったならば、直ちに「放水止め」と号令し②を介して③に伝達させる。

次いで、②が「放水止め」を伝達し「伝達終わり」と呼称したならば、筒先を外して、隊を解散させる。

1番員

②が「放水止め」を伝達し「伝達終わり」と呼称したならば、ホースから手を離し姿勢を正して、指揮者の指示で解散する。

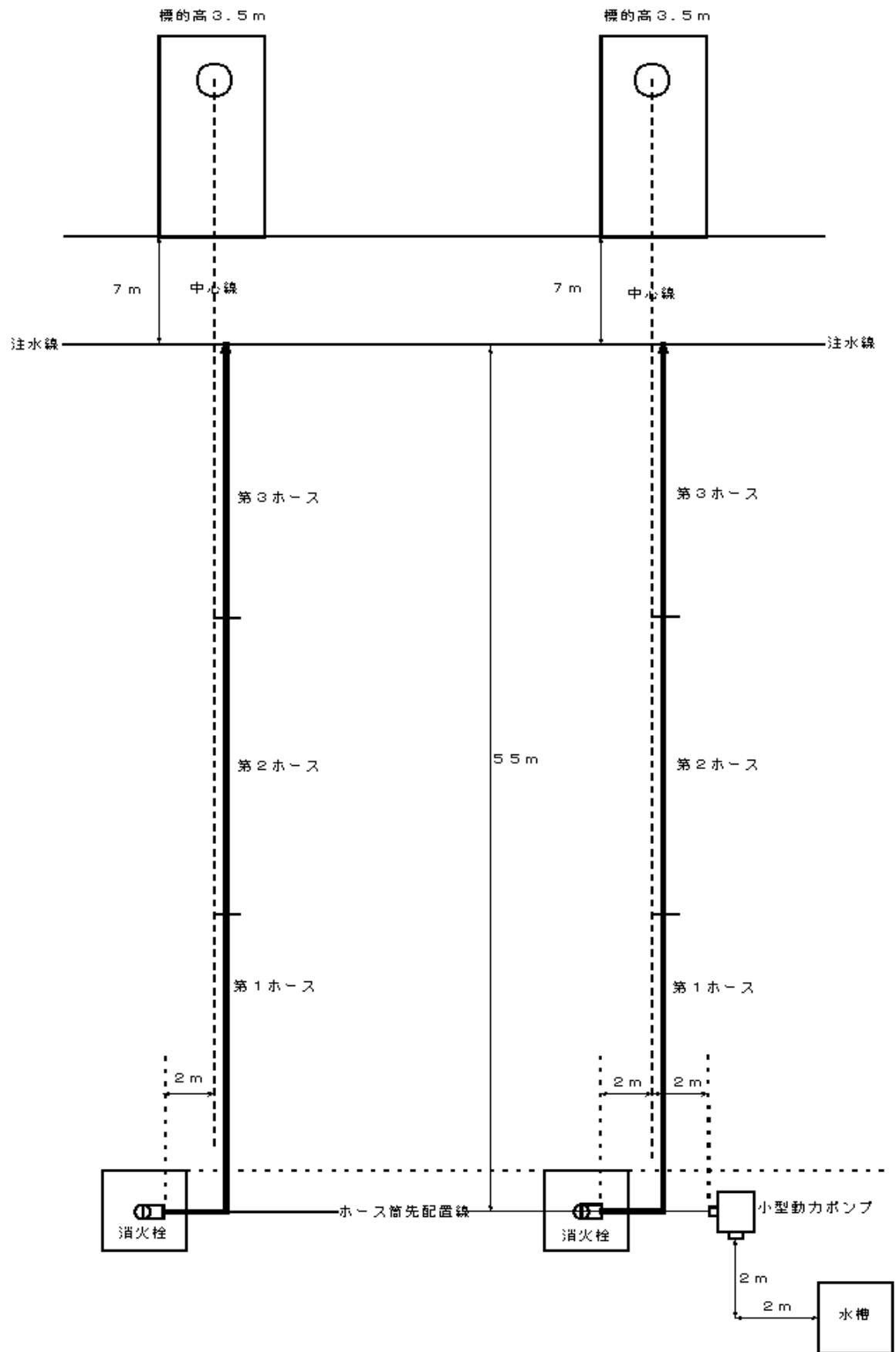
2番員

㊦の「放水止め」の号令で「放水止め」と復唱し、その場で③に右手を水平に上げて「放水止め」と伝達呼称した後、姿勢を正し「伝達終わり」と呼称して、指揮者の指示で解散する。

3番員

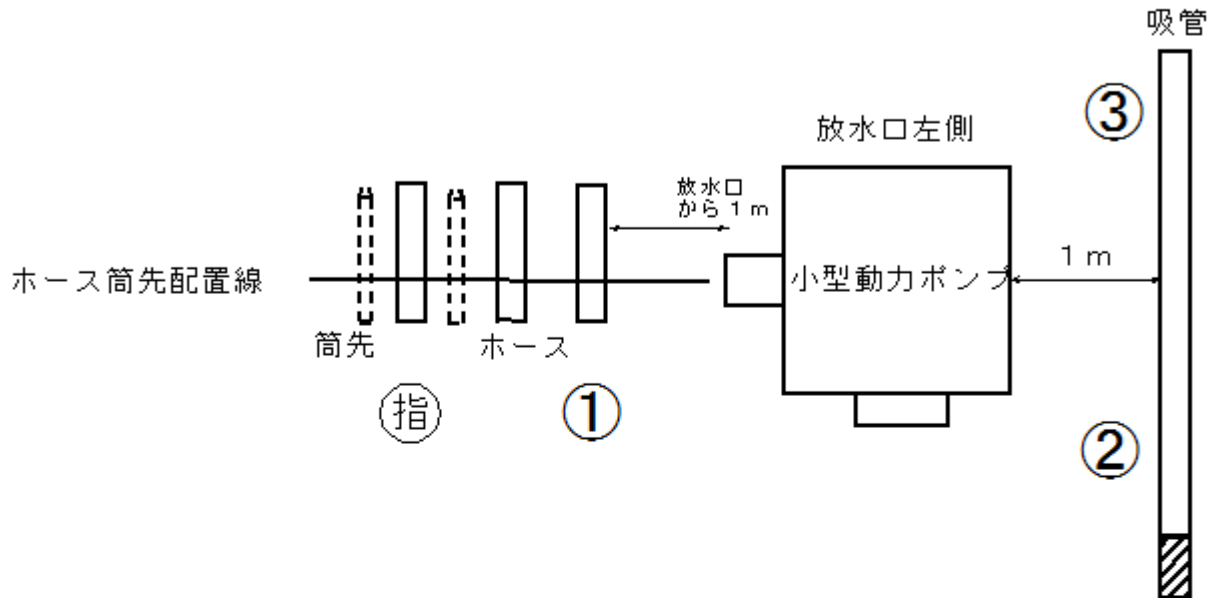
②が「放水止め」と伝達呼称するのを受け、右手を水平に上げて「放水止め」と復唱後、消火栓バルブを閉めて姿勢を正して、指揮者の指示で解散する。

操法施設及び器具配置



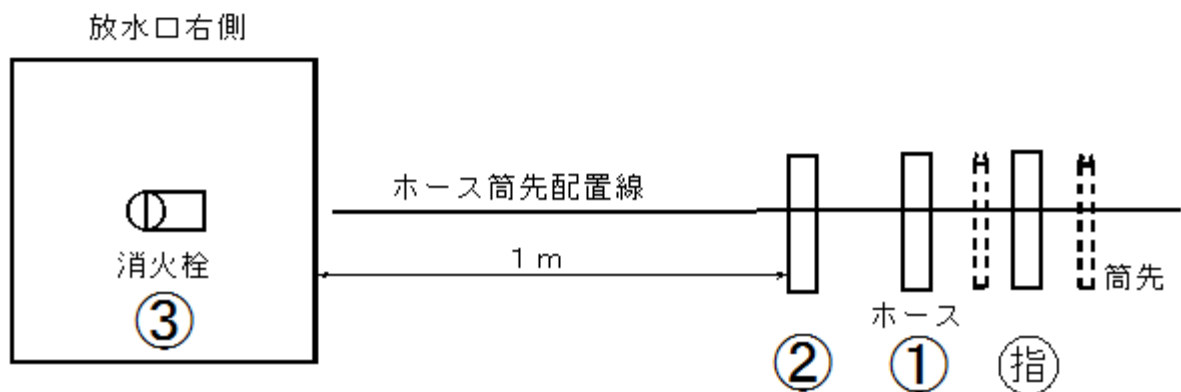
操法開始位置図

小型動力ポンプ操法



※補助者の開始位置は、水槽付近とする。

消火栓操法



屋内消火栓操法要領

1 想定指示

指揮者

火点方向を向き、「想定、火点は前方の的、消火器、屋内消火栓使用、操作始め」と号令し火点を指差す。

隊員

姿勢を正して㊦の想定指示を受ける。

2 操法開始

指揮者

「操作始め」と号令し③が「よし」と呼称後、火点に向かって前進し、火点付近の水消火器を携行して注水線手前で初期消火（火皿に向かって3秒間注水）を実施後（3秒間経過の旗振り合図後）、出火場所を連呼（2回以上）し他の隊員に周知する。

次いで、各隊員を監視する。

1番員

③が「よし」と呼称後、屋内消火栓ボックスに向かって前進し、筒先と第2ホースを取り出し脇に抱え、準備待機線にて待機する。

次いで、㊦の出火場所の連呼を確認した後、「よし」と呼称しホースを火点に向かって延長し、注水補助線を通過後②に「放水始め」と伝達呼称し、余裕ホースをとりながら注水線手前で、2箇所の火点に注水する。

2番員

③が「よし」と呼称後、屋内消火栓ボックスに向かって前進し、第1ホースを取り出し脇に抱え、①とともに準備待機線にて待機する。

次いで、㊦の出火場所の連呼を確認した後、①の「よし」の呼称でホースを火点に向かって延長し、①の「放水始め」を復唱後、その場で③の方向を向き右手を真上に上げて「放水始め」と伝達呼称し、③の「放水始め」の復唱を確認後、①の反対側後方で「伝達終わり」と伝達呼称し注水の補助に当たる。

3番員

㊦の「操作始め」の号令で「よし」と呼称後、屋内消火栓ボックスに向かって前進し①、②のホース等の取り出しを待ってホースの内側に入り、腰に余裕ホースをとって、㊦の出火場所の連呼を確認した後、消火栓起動ボタンを押し、ホース延長時の引き過ぎを防止する。

次いで、②が「放水始め」と伝達呼称するのを受け、右手を真上に上げて「放水始め」と復唱後、送水バルブを開放し送水を行う。

3 放水停止

指揮者

2箇所の標的が倒れたならば、直ちに「放水止め」と号令し②を介して③に伝達させる。

次いで、②が「放水止め」を伝達し「伝達終わり」と呼称したならば、隊を解散させる。

1番員

注水姿勢で待機して、指揮者の指示で解散する。

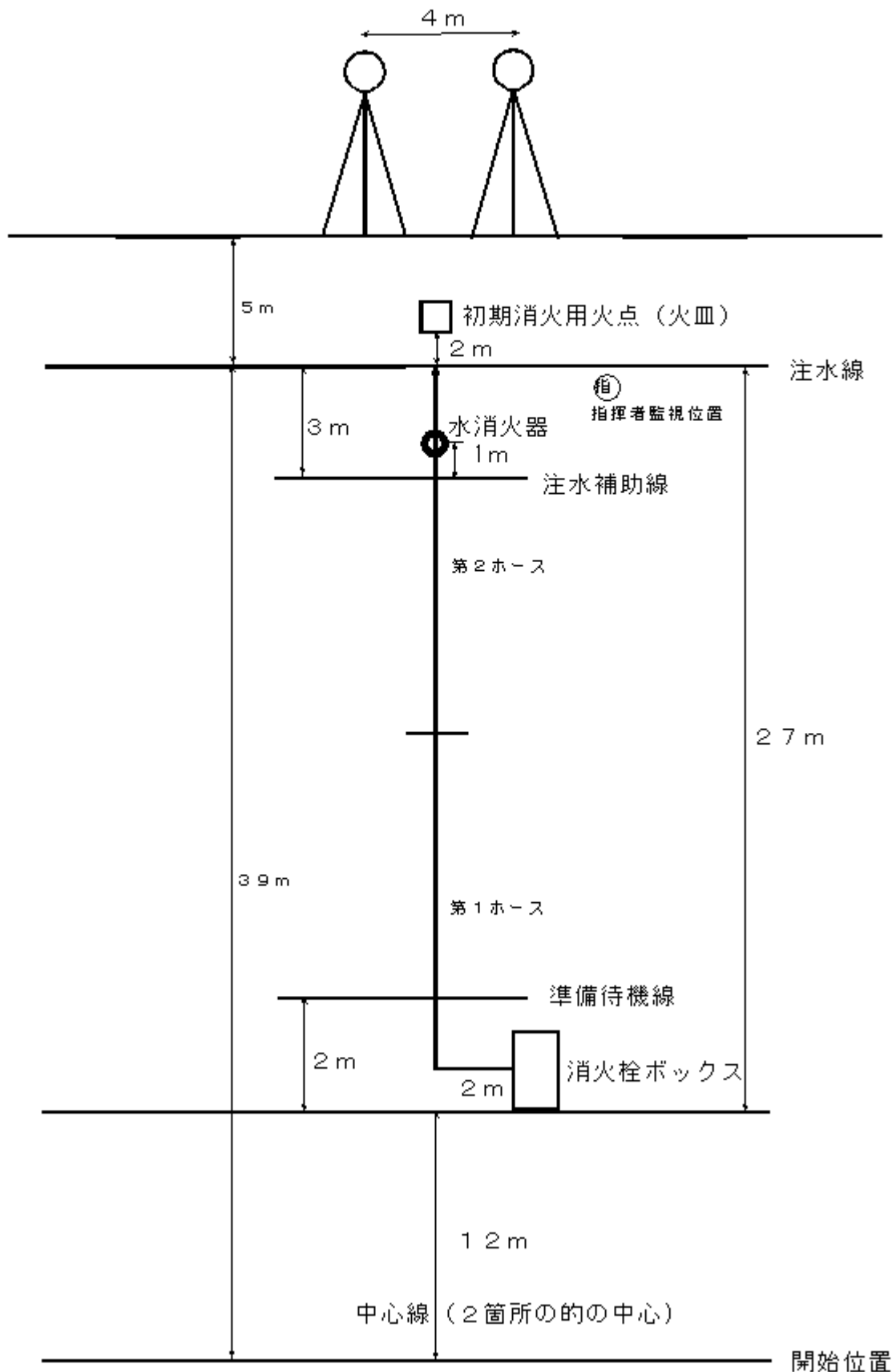
2番員

④の「放水止め」の号令で「放水止め」と復唱し、その場で③に右手を水平に上げて「放水止め」と伝達呼称した後、姿勢を正し「伝達終わり」と伝達呼称して、指揮者の指示で解散する。

3番員

②が「放水止め」と伝達呼称するのを受け、右手を水平に上げて「放水止め」と復唱後、送水バルブを閉めて姿勢を正して、指揮者の指示で解散する。

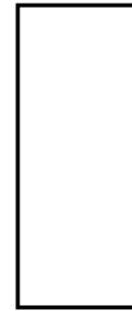
屋内消火栓操法施設及び器具配置



操法開始位置図

屋内消火栓操法

屋内消火栓ボックス



ボックス内

管そう
40mmホース2本

直径60cmの円



3 m



開始位置

操 法 審 査 要 領

1 動作得点

1 チーム持ち点50点とし、不確実な事項、動作、操法要領について減点しその残り点を動作得点とする。

2 時間得点

1 チーム持ち点100点、1秒1点として指揮者の「操作始め」の「め」の号令から火点標的の旗が上がるまでの時間を持ち点より差引き、その残り点を時間得点とする。

3 順位の決定

(1) 動作得点(持ち点50点－動作減点)＋時間得点(持ち点100点－所要時間)＝合計点の多いチーム

(2) 同点の場合は、動作減点の少ないチームが優位とする。

4 所要時間及び動作減点の審査員

(1) 計時は3名で計測し、2人以上の計時が同一の時はその値をとる。3人の計時が異なるときは、その中間の計時を所要時間とする。

(2) 各操作員にそれぞれ1名の審査員が同行し審査する。

5 操作実施上の協定事項

(1) 減点対象となるもの

ア 操法要領に示す操作を怠った場合

イ 操法要領に示す以外の操作をした場合

(2) 操法のやり直し

ア 水槽に補水できず水槽の水がなくなった場合

イ その他審査長が必要と認めた場合

(3) 異議の申し立て

審査の結果等については、一切異議の申し立てをすることができない。

(4) 統一事項

ア ホースの搬送には、機器を使用してはならない。

イ 所定の位置まで故意にホースを搬送しないで、延長してはならない。(全ホースの延長後の火点方向への大幅なホースの引きずりは、故意とみなすものとする。)

ウ 屋内消火栓操法については、搬送しながらの延長とし、折りたたみ状態で、ホースを引きずり延長してはならない。